

福島第一原子力発電所 サブドレンのPu分析結果

1. 採取場所：福島第一原子力発電所 2号機サブドレン
5号機サブドレン
6号機サブドレン
2. 分析機関：日本分析センター
3. 測定結果：

(単位：Bq/cm³)

採取場所	採取日	Pu-238	Pu-239+Pu-240
2号機サブドレン	2/13	N.D. [$<5.0 \times 10^{-7}$]	N.D. [$<4.6 \times 10^{-7}$]
5号機サブドレン		N.D. [$<4.6 \times 10^{-7}$]	N.D. [$<4.6 \times 10^{-7}$]
6号機サブドレン		N.D. [$<4.1 \times 10^{-7}$]	N.D. [$<4.1 \times 10^{-7}$]

[]内は検出限界値を示す

4. 評価：

今回測定した試料からはPu-238, Pu-239+Pu-240は検出されなかった。

以 上

サブドレン核種分析結果

(データ集約：3/7)

採取場所	福島第一 2号機サブドレン	福島第一 5号機サブドレン	福島第一 6号機サブドレン
試料採取日	平成24年2月13日	平成24年2月13日	平成24年2月13日
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)		
I-131 (約8日)	ND	ND	ND
Cs-134 (約2年)	5.0E-01	ND	ND
Cs-137 (約30年)	6.9E-01	ND	ND
H-3 (約12年)	1.7E+00	ND	1.6E-01
全	ND	ND	ND
全	2.4E+00	ND	ND
Sr-89 (約51日)	4.3E-02	ND	ND
Sr-90 (約29年)	5.7E-01	6.3E-04	ND

． E ± とは、 ． × 1 0 ± と同じ意味である。

I-131, Cs-134, Cs-137については, 2月14日公表。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は, 「ND」と記載。検出限界値は次のとおり。

I-131が約2E-2Bq/cm³, Cs-134が約2E-2Bq/cm³, Cs-137が約2E-2Bq/cm³,

H-3が約1E-1Bq/cm³, 全 が約4E-3Bq/cm³, 全 が約2E-2Bq/cm³,

Sr-89が約2E-4Bq/cm³, Sr-90が約5E-5Bq/cm³。

ただし, 検出限界値は検出器や試料性状により異なるため, この値以下でも検出される場合もある。

Sr-89, Sr-90の分析は日本分析センターにて実施。

(評価)

H-3, 全 放射能, Sr-89, Sr-90が検出されており, 今回の事故による影響と考えられる。